

祝 成人

向田英浩くん

(けやま)

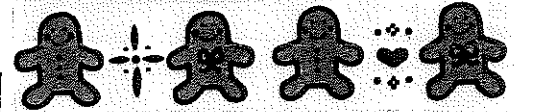


向田英浩くんが成人式を迎えました。向田くんは、けやま作業所開所と同時に入所し、現在はワッシャーの袋詰め作業を毎日頑張っています。入所した頃と比べると言葉が増え、意思表示がしっかりとできるようになった向田くん。1月26日の「成人を祝う会」では、仲間たち全員に祝福され大テレでした。ビールが大好きな向田くん、くれぐれも飲み過ぎないように注意しましょう！

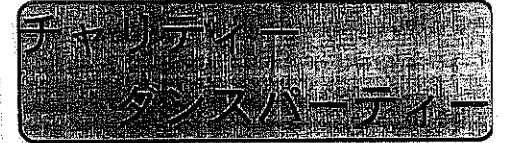
(塩入)



「月日というものは、こんなに早いものかと思っています。けやま作業所に入所して5年目を迎えるようになっていきます。それなりに少しづつ成長した面もあり、喜んでおります。まだ子供みたいな所はありますが、成人式を迎え、大人になったんだなあと思う今日この頃です。これからも、指導員さんの御協力をよろしくお願ひ致します。 母より」

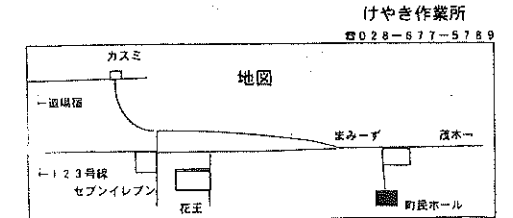


けやま作業所施設拡充のための



- ◎日時 1997年3月1日(土) 午後6:30~午後9:30
- ◎会場 市貝町市民ホール
- ◎バンド キング・フロック
- ◎前売券 1,500円
- ◎当日券 2,000円

◎主催 けやま作業所建設委員会
◎お問い合わせ 社会福祉法人「こぶしの会」



こぶしだより

1997年1月31日(金)
—発行— 第200号
こぶし作業所
宇都宮市柳田町1401
☎0286(62)1911

おめでとう 200号

理事長 松永 昂

ちょっと遅くなりましたが、新年おめでとうございます。1996年12月26日発行の『こぶしだより』を手にして良く見たら、何と何と「第199号」と書いてあるではありませんか！思いがたけいす。さらに8ヶ月を足して、16年と8ヶ月かけて第200号となったのです。『継続は力なり』と言われるが、まさにその通りだと感じています。でも、200号になるにはそれなりにスタッフの皆さんの、並々な御努力があったか、以上に、初めのうちは書きすぎから、1年に12回、10年で120回、16年で192号となる訳です。

驚きました。そして誠に無量の思いが致しました。『こぶしだより』は月1回きちんと発行されて来たので、それがいつの間にかきちんとした活字となり、新聞らしい体裁を整え大変見易くもなっ

ウッシーのポエム 2.
二十歳の恋

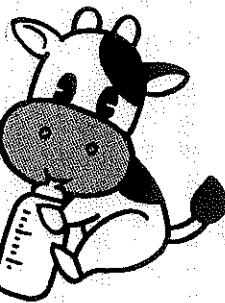
二十歳で 恋を知った
さびしく むなし
恋を知った
あの人に 伝えられたら
いいのになあ

編集 後記

気分を入れ取り組むつもりが、結局忙しさに流れてしまった。作業所の仲間も、障害の重い人が増え、現場では話し合いが向うことはほとんど無理な状況だ。しかし、今回の200号を作るにあたり寄せられた原稿を眺めると、その期待の大きさをひいと感じ、「こぶしだより」の大切さを実感した。寄せられた意見を全て、新たな一歩を踏み出すと思う。(金田)

つてきました。殊に今後の事業計画の予定とか、その月々のこよみなど保護者の方々にとつても、準備の上で利用し易くなったものと考えます。活字の大きさも内容も良いのですが、難点と言えはやはりカラー物の転載が相変わらず不鮮明で、読みとれないものもあります。予算等で制約もあるのですが、もう少し早くカラーコピーが出来るようにしたいものです。

そこで、私たちのスローガンに因んでひと言。「みんなで作ろうこぶしだより つかれるんだオレたちも！」
今後ともよろしく!みんな



こよみ

2月

21(土) 休
20(金) 休
19(木) 休
18(水) 休
17(火) 振
16(月) 休
15(日) 休
14(土) 休
13(金) 休
12(木) 休
11(水) 休
10(火) 休
9(月) 休
8(日) 休
7(土) 休
6(金) 休
5(木) 休
4(水) 休
3(火) 休
2(月) 休
1(日) 休

3月

31(土) 休
30(金) 休
29(木) 休
28(水) 休
27(火) 休
26(月) 休
25(日) 休
24(土) 休
23(金) 休
22(木) 休
21(水) 休
20(火) 休
19(月) 休
18(日) 休
17(土) 休
16(金) 休
15(木) 休
14(水) 休
13(火) 休
12(月) 休
11(日) 休
10(土) 休
9(金) 休
8(木) 休
7(水) 休
6(火) 休
5(月) 休
4(日) 休
3(土) 休
2(金) 休
1(木) 休

職員会議
年産末結核会議



HOT ひと息

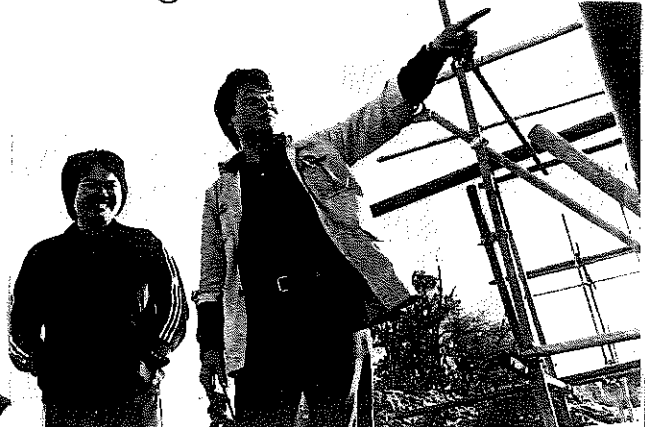
リサイクル洗びんセンター所長 菅井真

1980年4月―西大寛町の古い二軒長屋の一軒を借りて運営されていた「こぶし」から、現在にある柳田町に「こぶし」が移転した。事務室の白い壁が、太陽の光を受けとても明るく、また、とても広く感じながら、すべて手書きの『こぶしだより』版下を作っていたことを今、鮮明に想い出している。

「こぶし共同作業所」が、5年間の運動が実って社会福祉法人の認可を得て「こぶし作業所」という新しい看板でその春を迎えたのが、17年前になる。『こぶしだより』はその新生「こぶし」の仲間の家庭に対する連絡・情報紙と

すなわち、『こぶしだより』を通して、曲がりなりにも17年前（中には、23、4年前の仲間もいるが）に出会った仲間たちとの生き様を、引き続き共有できることの充実感を覚えることができるからである。

今後とも一層、こぶしの会が充実、発展することで、仲間たちが「こぶし」（けやき）と出会えて良かったといえる人生が過ごせることを、心底祈願する次第である。



1980年4月28日	
こぶしだより	
100(1)	100(2)
100(3)	100(4)
100(5)	100(6)
100(7)	100(8)
100(9)	100(10)
100(11)	100(12)
100(13)	100(14)
100(15)	100(16)
100(17)	100(18)
100(19)	100(20)
100(21)	100(22)
100(23)	100(24)
100(25)	100(26)
100(27)	100(28)
100(29)	100(30)
100(31)	100(32)
100(33)	100(34)
100(35)	100(36)
100(37)	100(38)
100(39)	100(40)
100(41)	100(42)
100(43)	100(44)
100(45)	100(46)
100(47)	100(48)
100(49)	100(50)

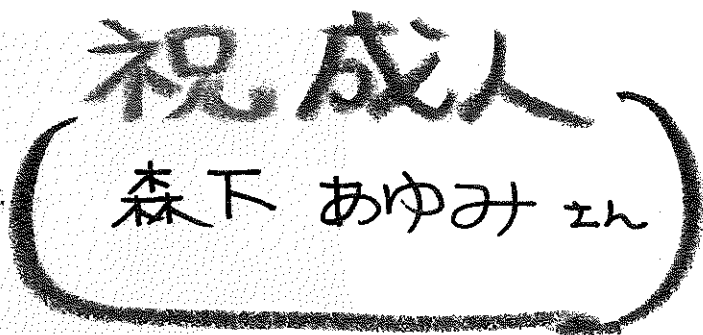
こぶしだより	
100(1)	100(2)
100(3)	100(4)
100(5)	100(6)
100(7)	100(8)
100(9)	100(10)
100(11)	100(12)
100(13)	100(14)
100(15)	100(16)
100(17)	100(18)
100(19)	100(20)
100(21)	100(22)
100(23)	100(24)
100(25)	100(26)
100(27)	100(28)
100(29)	100(30)
100(31)	100(32)
100(33)	100(34)
100(35)	100(36)
100(37)	100(38)
100(39)	100(40)
100(41)	100(42)
100(43)	100(44)
100(45)	100(46)
100(47)	100(48)
100(49)	100(50)

菅井真の創作 1979年こぶし創刊号 始まった頃の菅井真(右側)

こぶしでは、少し前まではしばらく間があいていた「成人を祝う会」も、ここ3年程続いています。そして、今年成人を迎えたのは、森下あゆみさんでした。

1月17日、成人の日より少し遅れて、こぶしでも仲間自治会主催であゆみさんの「成人を祝う会」を開きました。自治会役員の仲間達は、年明けとともに準備を始め、企画はどうするか、プレゼントはどうするか等々、頭を悩ませている中、会長の池田さんは特に積極的に「プレゼントは俺が考えてきます。」と、まるで娘のような年頃のあゆみさんが可愛く思っていたようです。

当日の目玉企画？は、あゆみさんの似顔絵コンクール。仲間の中から選ばれた3人が輪郭だけ描かれた紙に、次々と目、鼻を描き加えていきました。3人3様の絵にはなり



— こぶし —

ましたが、どれもあゆみちゃんを描くということを意識して取り組んでいました。所長や自治会会長のお祝いのごときは、似顔絵コンクール等々の企画

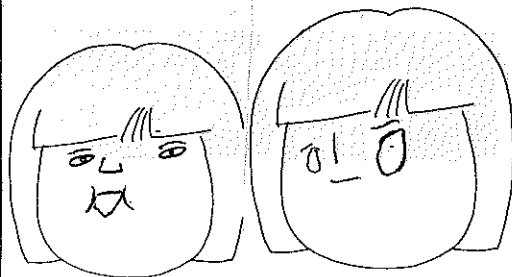
さんから、あゆみちゃんの思い出のメッセージをいただいたので紹介します。

(荒井)

『昭和51年11月17日午後9時頃、出産予定日より2日遅れて国立病院で生まれました。体重4200gの病院で一番大きい子でした。今はめったに病氣はしません。小さい時は風邪の薬の副作用で、口の中全体が口内炎になり入院したり、私が台所で仕事をしている時に、一人でお風呂で遊んでい



の間、当のあゆみちゃんも自分の祝う会であることを意識して、終始ニコニコと参加していました。また、祝う会にむけてお母



(左)

流口

て、転んで頭を切って2針縫ったり、火傷も2度ありました。幼稚園は家の近くの明星幼稚園に行きました。小学校は5年生まで目黒のゆりのき学級に通い、6年生の時に宇都宮に引っ越して来ました。そして、6年生から富屋養護学校に入学、それから4年前に、こぶし作業所にお世話になり、今にいたっております。小さい時からマクドナルド・ロッテリアが大好きで、休みの日には必ず行かないと気がすまない、そんな子でした。(ハンバーガー、エックマフィン、ポテト等が大好きです) 母より』

たのしい クリスマス



「今年は忘年会と別な日にやらない？」職員の間で悲憤な訴えは、仲間自治会の役員・レクリエーション部員合同の「クリスマス会実行委員」には届かなかった。

この日12月23日は（毎年）午前中忘年会、午後クリスマス会の2本立て。そう、一日中飲み食いをしていっているのです。仲間たちは、これが楽しみ、とばかりに、限界に挑みます。午前の部は、アルコールも手伝い、心地よいのですが……さて、今回のクリスマス会は、「大人の雰囲気」をテーマに企画しました。サンタにプレゼントをもらうよりはと

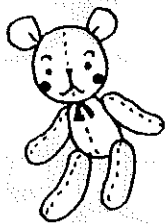
こぶしでは初の試み、大あみだくじ大会で盛り上がりました。

アレ？Kちゃんいないゾオ どうした？エツ？寝てる！ どれどれ、ウツ酒臭い！しょがないなア、ゲブツ！



（金田）

午前中の忘年会で満腹になったけやきの仲間たち。クリスマス会は、数々のゲームで盛り上がりました。ボランテアのお姉さんたちとの風船わりゲームや、プレゼント争奪ビンゴゲーム等々、賑やかに楽しいひとときを過ごしました。



（塩入）

新年

抱負を語る。 けやきの巻。



1月6日（月）、新年初顔合わせ、毎年恒例「新年の抱負語る会」を行いました。

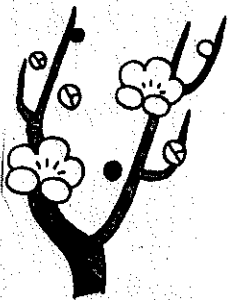
見目が司会で、はじめに今回10連休という、こぶしの会史上最長ではなかるうかと言われるお正月休みを、仲間の皆はどのように過ごしたかたずねてみました。全員の話をもとめると、外出は初詣ぐらいで、後は紅白を見て、お雑煮を食べて、こたつでゴロゴロの寝正月をきめていたようです。これも一つの過ごし方で、休養も充分にとれかまわないと思えますが、ほとんど全員がそういう過ごし方では、少し寂しいですね。仲間の豊かな余暇の過ごし方を検討する必要があります。

さて次は、本題の今年の抱



（成田）

保護者との 架け橋に



こぶし作業所保護者会会長 高橋昭英

私の家の小さな庭に、古木の梅の木（樹齢約130年）があります。花が大きく、中心が薄紅色で毎年一月中頃から咲き始め、大きな実をつけますので楽しみにしています。今年、昨年12月末頃から開花が始まり、最近では六分程開き春を告げる香りを漂しております。今年は暖冬なので

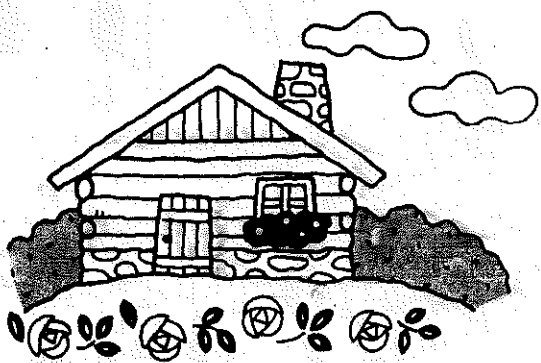
の資金面や、また幾多の問題等もあり難しいと思われま。だが、将来施設に入った時に生活するうえで、こぶし作業所ではその前段階として年1回、3日間の宿泊、生活訓練を行い、生活の知恵を身に付けることを実践して来ましたが、今まで利用してきた身体障害者福祉会館は移転の計画があり、今後続けることは困難と思われま。しかし仲間

本年1月に助成するとの通知がありました。これは宿泊訓練で生活実習を実践することが認められましたので、職員並に保護者の皆さんの協力をえて是非とも成功させ、それにより回数を増やすことや、その他の行事が可能ではないかと思われま。一時の花を見る時間を増やしたい、よろしくお願い致します。

『こぶしだより』も200号発行記念、本当におめでとうございませ。これも職員の方々の努力と苦心の賜物と思います。これからは是非続けて300号、400号に向かって発行して下さい。できれば、今後の内容の一つとして職員の指導、

保護者が今一番気掛かりなことは、親亡き後の子供達のことです。役員会などでよく話題になります。特に、こぶし作業所開所当初から利用している仲間の親達は高齢者となり、このことはどの家庭においても深刻な問題だからです。親が面倒をみられなくなった時、安心して預けられる永久的な生活施設ができれば作業所に通っている仲間全員が一緒に生活できるような所が理想ですが、それには多額

設を建設するときに助成してくれる団体はないか調べて行くうちに、助成率の高い社会福祉法人清水基金にその制度があることがわかり、保護者の皆さんと相談し、助成がおりるかどうか非常に難しいがこぶしの会で昨年8月に申し込みをしてみましたところ、



みんなをつなぐ 『こぶしだより』

こぶし作業所書記 川島悦子

毎月の行事の総括的な意味で、楽しく読ませてもらっています。
『こぶしだより』って何だろうと考えると、家庭と作業所をつなぐもの、そして、地域社会の皆さんへつながってゆく大切なものだと、改めて思います。こぶしだよりの記者は、それぞれ、個性あふれる文章を書いています。私が楽しみにしているのは、ウッシーのポエムの欄と、みんなで大地のコーナーです。ウッシーも勿論ですが、仲間のみんなの声やつばやきが、これからもたくさん載せてもらえるよう、頑張ってます。みんなで大地

というタイトルは納得いくような感じがする。よくわからない感じが魅力があるから読んでみると、辛口で楽しいです。福祉の事にうとい新人としては、福祉の講座と思っ

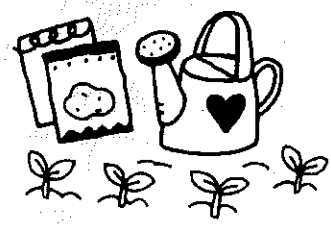
みんなで大地

こぶし作業所に入職して4年。振り返ってみれば、細かい文字の印刷された分厚い本をパラパラとめくっていくような思い出で、章ごとの題字ぐらいしか記憶にのぼらないところがある。
「こぶし」が無認可で下野の大地に姿を現したのは、今から23年前、1979年のことだとこぶし作業所10周年記念文集は伝えている。
その23年間の『こぶしだより』を、この200号記念紙発行に際し見ることができた。

私が障害者福祉の道に入った時代と「こぶし」の歴史は重なる訳で、黄色くなったガリ刷りの『こぶしだより』を見ながら思い出が交差した。少なくとも20年というスパン

者の討論をもとにした作業所づくりを目指しているという理念の上も、民主的経営体といわれるゆえん”であるが、この4年間の楽しさ、辛さを規定しているものが、他ならぬこの「民主経営」という存在である。
この地球上とはいわなくても、日本や栃木県の中を見ても、まだまだ野蛮な事が沢山存在する。障害者問題おやで

た真に障害者の皆となるためにも、この民主経営というものを実質的に守り、発展させていく決意である。
(鬼やんま)



第100号から現在の「こぶしだより」のロゴと作る（菅井さんの奥さんに作ってもらった。）

- 「みんなで大地」は、1972年より「行政とピクレス」を改め登場。シリーズ化する。
- 「ウッシーのポエム」は、1974年に初お目見え。

1993年4月より
「分場」がスタート。と水にとともに
新しい紙面も両面に拡張!! 1975年

お知らせ
おなじみの「こぶしだより」が、今更なる進化を遂げ、紙面を拡張し、内容も充実させています。おなじみの「ウッシーのポエム」も、紙面を拡張し、より多くの詩人を募集しています。

おなじみの「こぶしだより」が、今更なる進化を遂げ、紙面を拡張し、内容も充実させています。おなじみの「ウッシーのポエム」も、紙面を拡張し、より多くの詩人を募集しています。

ウッシーのポエム 1.

真っ赤な
りんごのような ほっぺ
真っ赤な
もみじのような 手
元気にかいまわる 姿は
子供のようだ
君を 雪ん子と 呼ぼう

